



渡辺裕香子さん(弘前出身)「遠距離介護」出版

横浜市在住の渡辺裕香子さん(顔写真)が、故郷である弘前市に住む叔母の介護のため、弘前と横浜を往復し続けた4年間を一冊にまとめた。

本にまつわる「遠距離介護」というタイトルは「遠距離介護 叔母を見取った私の場合」(百年書房)。

渡辺さんは同書の冒頭で「結婚する人や子を産む人が減り、今後はおじやおばの介護に関わること

は「遠距離介護 叔母を見取った私の場合」(百年書房)。

渡辺さんは12日、東奥日報社東京支社を訪れ、「大変だったのは、さまざまな決断を一人でしなければならなかつたこと」と振り返り、同書について手書き、胃ろう承諾書への署名、転院先探しなど、次々と押し寄せる事象がテンポ良く展開する。

横浜と4年間往復 故郷の叔母みとる

が増えてくるだろう。何らかの参考にしていただければ」と呼び掛ける。

渡辺さんは1950年、弘前市生まれ。青山学院大卒。進学のため18歳で弘前を離れてからは東京で暮らし、結婚を機に神奈川県川崎市に移り、現在は横浜市に住んでいる。

「遠距離介護」は、弘前市に住み独身を通した叔母との思い出と、叔母の最期をみとるまでの介護の記録。渡辺さんは70

については「記憶にあるうちに残したいと思い、最後は自分のために書いたもの。ただ、介護は突然やってくるので、そういう時の前知識にもなるかなと。読む方のお役に立てればと思います」と話した。

「遠距離介護」は1756、1500円+税(送料込み)。購入希望は百年書房(電話03・6666・9594、FAX03・6666・9433)へ。(白取心平)

遠距離介護

本書は、地方に住んでいた独身の叔母の介護に関わった四年間の記録です。
実際の介護は地元で行われても、市に望む結果はされません。私も、自分の介護に望む結果はでした。(以下により)

吉田和也

「遠距離介護」の表紙